

令和 7 年 8 月 10 日からの大 雨 時 に お け る
排水機場等の稼働状況等に関する検証委員会

中間答申（概要版）

令和 7 年（2025 年）11 月 14 日

令和 7 年 8 月 10 日からの大 雨 時 に お け る 排水機場等の稼働状況等に関する検証委員会

令和7年8月10日からの大雨により、熊本市が管理する山ノ下排水機場及び坪井ポンプ場では一時的に排水機能の喪失により、稼働に空白の時間が生じた。本検証委員会では、各々の排水機場等について、停止原因・再稼働までの職員の対応及び周辺への影響について、そして再発防止に必要となる各種の対策について検証した。

（1）山ノ下排水機場

【排水機場等が停止した原因に対する検証結果】

- ・熊本市において令和7年8月10日から11日にかけて記録的な大雨を観測した。
- ・大雨により花園地区一帯で内水氾濫がしたと考えられ、排水機場敷地内が浸水した。
- ・浸水により夾雜物が除塵機の裏側から流入してポンプに囁みこみ、令和7年8月11日2時23分に過電流が発生し、電源が遮断した。VCB表示確認により、直接的な要因であると言える。

【排水機場等が停止したことによる影響に対する検証結果】

- ・山ノ下排水機場周辺の浸水深の確認については、熊本市河川等監視システムのカメラからの目視、及び浸水が解消した後に職員が調査した浸水痕等により、11日2時から6時までに浸水深が数cm上昇したと推測される。
- ・排水機能喪失により排水遅延が発生し、浸水時間に影響した可能性がある。

【熊本市の対応に対する検証結果】

- ・平常時から定期点検を実施しており、設備メンテナンスも適切に行われていた。
- ・操作についても要領、マニュアルが整備されており、当日も操作要領等に沿った対応であった。
- ・周辺で浸水が発生した際、非常時に施設へ侵入できない場合に関する規定等はなかったが、運転管理業者間との仕様書では非常時の退避に関する規定はなされていた。
- ・今後もポンプ施設だけでは対応できない降雨も想定されるため、水防本部含め関係部署との連携による市民周知が重要である。

【再発防止策に対する検証結果】

- ・除塵機周りの夾雜物混入対策及び施設の耐水化が必要。
- ・職員の安全を確保するため、非常時の対応まで落とし込んだマニュアルの見直しが必要である。
- ・新たに建設中の排水機場、および地下貯留施設の建設を着実に推進することが、地域の浸水対策として重要である。

(2) 坪井ポンプ場

【排水機場等が停止した原因に対する検証結果】

- ・坪井ポンプ場周辺は、大雨によって約120cmの浸水が発生した。
- ・受電設備への浸水によりVCB（安全装置）が焼損し、電源が喪失したことがポンプ場停止の原因である。

【排水機場等が停止したことによる影響に対する検証結果】

- ・記録的な大雨により、坪井ポンプ場が停止する8月11日2時ごろには既に周辺が浸水していた。
- ・浸水痕調査と標高の関係から、ポンプ停止による浸水への影響は、ポンプが停止していた14.5時間で数cmと推定される。

【熊本市の対応に対する検証結果】

- ・大雨時は水防体制をとることとなっており、当日も初動体制をとった上で、降雨に応じて増員を行っている。
- ・停電時は、可搬式発電機を接続し復旧する行動計画となっており、当日もこの流れに沿った行動がなされていた。
- ・非常時は柔軟な対応が求められるが、組織的な判断の指針があることは非常に冷静・適切に対応を行うことの助けになるとを考えている。

【再発防止策に対する検証結果】

- ・受電設備のかさ上げが必要である。
- ・耐水化計画に則って、施設の耐水化を進めてほしい。
- ・ポンプ場周辺の浸水がポンプ停止の要因であり、中長期的には、周辺の流域を含めた浸水対策が必要。

(3) その他

- ・止水板の補助制度について、市域全体を対象に早期に導入することが望ましい。
- ・ワンコインセンサや内水浸水想定区域図を活用して浸水状況を市民に周知する等、ソフト対策を織り交ぜながら事業を実施することが望ましい。